

全国書誌通信

No. 90

1994. 7. 8

国立国会図書館

目 次

著者名典拠ファイルの公開に向けて 2

石川史士

*

<典拠>

JAPAN/MARC 著者名典拠フォーマット
について 3

*

◇刊行のお知らせ

—蔵書目録—

『国立国会図書館蔵書目録 明治期』刊行のお知らせ 16

—その他—

『UNIMARC/Authorities』刊行のお知らせ 17

著者名典拠ファイルの公開に向けて

石川 史士

典拠ファイル、典拠作業、典拠レコード、典拠コントロール等、“典拠”にまつわる言葉が盛んに使われるようになったのは、最近のことではなかろうか。一昔前、NCR65年版の時代には、標目として採用した個人名、団体名、件名等をABC順に編成したカード体ファイルを「典拠ファイル」と称した。当館では、昭和23年以来、整理部門において手書きで典拠カードを作成し、維持・管理を行ない、整理業務のツールとして使用してきた。著者名については、明治以降の日本人名、江戸期以前の日本人名、中国・朝鮮人名、その他の外国人名、団体名。著者名以外には、シリーズ名さらに件名（普通件名、人名および固有名）と、さまざまな種類の典拠ファイルが、それぞれ維持されてきたのである。

このうち、明治以降の日本人著者名については、NCR新版予備版を適用する機会に機械入力し、昭和54年『国立国会図書館著者名典拠録』を刊行した。その後3年ごとに追録を出し、平成3年には『同 第2版』を刊行。その際、前書きで「今後は、機械可読形で」とこれからの提供のあり方にふれたことも記憶に新しい。

アメリカ始め諸外国では、すでに典拠ファイルが磁気テープで外部提供されており、わが国においても当館が早く磁気テープあるいはCD-ROM等の形態で、典拠ファイルを公開するようとの要望も寄せられていた。そのため昨年より検討を行ない、今年の秋には日本人著者名典拠ファイルの磁気テープ版の公開が実現する運びとなった。今後、外国人名、遡及分の人名、団体名等についても順次整備が行なわれることになろう。

欧米諸国においては、典拠コントロールが書誌情報データベースの品質管理に大きな役割を果たしている。国際的にもIFLAの下に典拠システム作業グループが設置され、典拠データの国際交換のためのUNIMARCフォーマットが開発された。当館が今回著者名典拠録磁気テープ版のために開発したフォーマットは、JAPAN/MARC書誌レコードとの整合性を考慮しつつ、UNIMARC典拠フォーマットに準拠したものである。

予定されている典拠ファイルの公開が、書誌作成機関のデータベースの遡及および品質管理に役立つことがあれば幸いである。さらに著者名典拠の共同利用計画についても、今後検討してゆく必要があるだろう。

(いしかわ ふみお 収集部資料調整室長)

JAPAN/MARC 著者名典拠

フォーマットについて

図書部図書整理課

機械可読形著者名典拠ファイル(MT版)の刊行計画について

当館では現在、ジャパンマーク収録の著者標目に関係する典拠データを機械可読形（当面は磁気テープ版のみ予定）で頒布するための準備を進めています。頒布方法・頒布条件等は未定ですが、テスト・テープの配布も含めて、本年9月に累積版の頒布開始を予定しています。この累積版には、昭和23年以降に受入整理された資料にもとづいて作成された日本人著者名典拠レコード約27万件を収録する予定です。昭和23年以前に受入整理された資料にもとづく日本人著者名典拠レコード（「ジャパンマーク遡及版明治期」収録分約7万件を含む）および団体名、外国人名典拠レコードは、来年度以降データ整備が完了次第順次収録していく予定です。

「著者名典拠ファイルのフォーマットに関する説明会」の開催

上記の典拠ファイル公開にあたって、頒布用フォーマットを確定するために、本年3月25日（金）に当館において、ジャパンマーク購入機関を中心に30機関から43名が参加して標記説明会が開催されました。当館側から磁気テープ版典拠ファイルのフォーマット案の説明を行った後、収録範囲、頒布条件等も含めた質疑応答が行われました。

フォーマットに関する参加者からの質問は、主としてジャパンマーク書誌データと典拠データとの関係（整合性）に関わるものでした。このような参加者からの意見を受けて、以下のような方針のもとに頒布用フォーマットを決定しましたので、ここに報告することとしました。

1 フォーマット作成の基本方針

(1) 目的

国立国会図書館の著者名典拠ファイルのフォーマットは、当館作成の著者名典拠レコードを磁気テープ形態で提供することを目的として作成する。また同時に、国内諸機関および諸外国との典拠情報の交換を行うための我が国の交換用標準フォーマットとなることを目標とする。

(2) フォーマットの名称

「JAPAN/MARC 著者名典拠フォーマット」とする。

（英語名：JAPAN/MARC Format for Authorities of Author Names）

(3) JAPAN/MARCとの関係

書誌レコードについてJAPAN/MARCフォーマットによりデータを提供しているので、典拠フォーマットは、基本的にJAPAN/MARCと併せて利用することを想定して作成する。

(4) UNIMARC典拠フォーマットとの関係

JAPAN/MARCフォーマットがUNIMARCフォーマットに準拠していると同様に、典拠フォーマットもUNIMARC典拠フォーマット（UNIMARC Authorities 1991）に準拠する。その他の各種の国内規格および国際規格への準拠も同様である。なお、UNIMARC典拠フォーマットの日本語翻訳版は本年3月に当館から刊行されている（本誌p17参照）。

(5) UNIMARC 典拠フォーマット準拠の範囲

JAPAN/MARC フォーマットによるデータ提供の実績をふまえ、UNIMARC 典拠フォーマット準拠の範囲を部分的に拡大する。

(6) 想定する収録範囲

個人および団体の著者名を想定する。

但し、今回決定したフォーマットは個人名のみ限定している（個人名には、日本人名の他にローマンアルファベットで表記される外国人名、中国人名、韓国朝鮮人名等のすべての人名を含む）。

団体名のフォーマットは、標目形式について目録規則との関連でさらに検討した後に提示する。

件名標目まで拡張することは今回想定しない。

(7) タグ、およびサブフィールドコード

UNIMARC 典拠フォーマットに対応する項目のタグの番号づけおよびサブフィールドコード（\$a \$b など）はUNIMARC 典拠フォーマットをできるだけ改変しないで用いる。

(8) フィールドおよびサブフィールドの名称

UNIMARC 典拠フォーマットの日本語翻訳版における語を原則として使用する。但し、JAPAN/MARC や日本目録規則など日本の実情にあわせた名称を使用することもある。

（例）200 \$a 姓または姓名の区切りのない人名

この場合、上記(7)でタグとサブフィールドコードはUNIMARC 典拠フォーマットに従っているので、一対一で対照できる。英語版 JAPAN/MARC 著者名典拠フォーマットを別に作成する場合はUNIMARC 典拠フォーマットの用語を使用する。

（例）200 \$a Entry element

2 JAPAN/MARC フォーマットとの構造上の主な相違点

(1) フィールドの繰り返し（リピート）の採用

フィールドの繰り返しができない JAPAN/MARC に対して、フィールドの繰り返しを可能とする。

(2) 「対となってリピータブル」から「同一フィールドのリピート」へ

標目フィールドにおける漢字形、カナ形、ローマ字形を同一フィールド内のサブフィールドとして「対となってリピータブル」とする方式ではなく、文字を特定しない日本語形（いわゆる漢字形）、カナ形、ラテン文字形（ローマ字形）注の3種類のデータを並列フィールド（同一フィールドの繰り返し）とするUNIMARC方式を採用する。

このような変更の理由は以下の通りである。

- ① UNIMARC方式の方がより分析的、論理的であり、分析から合成は可能であるが、その逆は困難である。
- ② JAPAN/MARC方式をそのまま採用するのではなく、文字種ごとにフィールド化して利用する機関の方が多く、個々のシステムに合うようにデータ処理を行う場合、UNIMARC方式の方が便利であると考えられる。
- ③ 諸外国での利用が容易になる。

注） JAPAN/MARCでは、「ローマ字形」という名称を用いているが、文字種の区分としては、UNIMARC 典拠フォーマットにおける「ラテン文字形」の名称がより論理的と思われるので、後者の名称を用いることとする。なお、「文字を特定しない日本語形」

は便宜上、「漢字形」と略称することとする。

(3) 標目（および参照）フィールドにおける文字種の表現方法

標目フィールドにおける漢字形、カナ形、ラテン文字形を同一タグの別フィールドを繰り返して記録する場合、当該フィールドの文字種は次のような方法で定義される。

典拠レコード全体の文字種は、コード化情報ブロックにおける「一般的処理データ」（フィールド 100 サブフィールド \$a）の文字位置21-22の「目録用文字」において表現される。JAPAN/MARC典拠レコードは、漢字、カナ、ラテン文字等の文字を特定しない日本語で表現されるので、その値は常に「da」（文字を特定しない日本語）となる。

JAPAN/MARC書誌レコードにおける標目の漢字形（サブフィールド \$B）に対応するフィールドは、カナ、ラテン文字、漢字混じりの日本語で表現されるので、文字種の値はやはり「da」となり、当該フィールド自体では文字種の定義付けは行わない。それに対して、JAPAN/MARC書誌レコードにおける標目のカナ形（サブフィールド \$A）とローマ字形（サブフィールド \$X）に対応するフィールドでは、サブフィールド \$7 において、当該フィールドの文字種を定義付ける。カナ形フィールドの値は「dc」であり、ラテン文字形フィールドの値は「ba」である。

(例) 100 \$a 19881028a:j pny1112△△△△da
200 \$a 夏目 \$b 漱石
200 \$7dc \$a ナツメ \$b ソウセキ
200 \$7ba \$a Natume \$b S[^]oseki

なお、UNIMARC典拠フォーマットで規定されている文字種のコードには以下のようなものがある。

ba = ラテン文字	ga = ギリシャ文字
ca = キリル文字	ha = ヘブライ文字
da = 日本語（文字は特定せず）	ia = タイ文字
db = 日本語（漢字）	ja = デバナガリ文字
dc = 日本語（仮名）	ka = 韓国朝鮮文字
ea = 中国語文字	la = タミル文字
fa = アラビア文字	zz = その他

これらのコードのうち、JAPAN/MARC典拠レコードで現在使用を予定しているのは、「ba」「da」「dc」の3種類だけである。

(4) 標目（および参照）フィールドにおけるサブフィールドコードの意味の変更

JAPAN/MARC書誌レコードにおいては、標目フィールドのサブフィールド（\$A、\$X、\$B）は文字種を表現するのに対し、JAPAN/MARC典拠レコードにおける標目（および参照）フィールドのサブフィールドは、名前の要素を表現するように変更される。

JAPAN/MARC書誌レコードでは、ダブルスラッシュ（漢字形の姓と名の区切り）、カンマ（カナ、ローマ字形の姓と名の区切り）、丸がっこ（付記事項）といった一種の区切り記号で表現されていた名前の要素を、サブフィールドで表現することとなる。

<典拠レコード>

<書誌レコード>

\$a 姓（姓名の区別がなく、転置形でない人名も含む）

--

\$b 名

カンマまたはダブルスラッシュに続く

\$c 姓名以外の名前の部分（敬称、
称号、尊称等）

カンマに続く

\$d 世系

丸がっこ

\$f 生没年等

丸がっこ

\$g その他の付記事項

丸がっこ

（例1）

<書誌レコード>

751 \$A ササキ, ヒカル (1921生) \$X Sasaki, Hikaru
(1921生) \$B 佐々木//光 (1921生)

<典拠レコード>

200 \$a 佐々木 \$b 光 \$f 1921生

200 \$7dc \$a ササキ \$b ヒカル

200 \$7ba \$a Sasaki \$b Hikaru

（例2）

<書誌レコード>

751 \$A Sade, Donatien Alphonse François,
marquis de. \$X << Sade, Donatien Alphonse
François, marquis de. >>

<典拠レコード>

200 \$a Sade \$b Donatien Alphonse François
\$c marquis de.

(5) インディケータの導入

各種のデータ処理を容易にするとともに、データ交換の機能、将来における件名典拠への拡張等を考慮して、新たにインディケータを導入することとする。

UNIMARC典拠フォーマットで規定されているインディケータの種類には以下のようなものがある。

- ① 人名の形式（姓名形かそうでないか）
- ② 団体名の形式（転置形か直接形か等）
- ③ 団体の種別（団体か会議か）
- ④ 集合タイトルの種別
- ⑤ 注記の種別（件名標目との関連）
- ⑥ 機関の役割（作成機関か修正機関か等）

今回提示するフォーマットの対象となる個人著者名典拠レコードの範囲内では、上記の①と

⑤と⑥が関係しており、これらのインディケータを除いて使用することも可能である。

(6) JIS外字の他の記号への置き換え

JIS外字となる記号はJISの他の記号にできるだけ置き換えることとする。

<姓と名を区切るダブルスラッシュ>

夏目//漱石 → \$a 夏目 \$b 漱石

<ローマ字形における長音>

S^oseki → S[^]oseki

3 UNIMARC典拠フォーマットに存在しない項目の追加

わが国の実情にあわせ、UNIMARC典拠フォーマットに存在しないフィールドおよびコードを次のように追加する。

(1) 生没年に関する注記フィールド（タグ301）の追加

UNIMARCにおいては目録作成者注記（タグ830）に収録される生没年に関する注記を独立した注記フィールドとして設ける。JAPAN/MARCにおいては『日本目録規則 新版予備版』に準拠して同姓同名以外は生没年を標目を含めず、またデータ形式は当館の適用細則に従って、波ダッシュ（もしくはハイフン）を使用せず「1921生」や「1980没」といった形式を採用しているため、JAPAN/MARCとは異なった方式を用いているMARC利用機関が、生没年データ抽出を容易にするために、以下のような形式のデータをこのフィールドに収録することとする。

(例) 200 \$f1921生
301 \$a1921-
301 \$a1921-1980

(2) 中国人名、韓国朝鮮人名の読みのコードの追加

「を見よ」参照フィールド（タグ400）および「をも見よ」参照フィールド（タグ500）に、標記のコードを収めるサブフィールド（\$0）を追加する。このサブフィールドには、中国人名母国語読み（c）、中国・韓国朝鮮人名日本語読み（j）、韓国朝鮮人名母国語読み（k）のコードを収める。

(3) 文字に関する注記（タグ831）の追加

JIS外字のコード番号、大漢和辞典検字番号等、外字に関する注記を独立して設ける。

(4) タグ906（著者名典拠録典拠番号）

『国立国会図書館著者名典拠録 明治以降日本人名 第2版』（1991年刊）における典拠レコード番号を収めるフィールドをユーザーブロックに追加する。

4 JAPAN/MARC 典拠ファイル・データ項目一覧

<レコードラベル>

名 称	文字数	データ内容
レコードの長	5	
レコードの状態	1	n:新規レコード c:訂正レコード d:廃棄レコード
典拠記入・参照記入レコード識別コード	4	
レコードの種別	(1)	x:典拠記入レコード y:参照記入レコード z:説明付参照記入レコード
未使用	(3)	3桁の空白
インディケータの長さ	1	値は2
サブフィールド識別子の長さ	1	値は2
データの起点位置	5	
付加的レコード定義	3	
入力レベル	(1)	0:完全 3:不完全(NDL頒布レコードは0)
未使用	(2)	2桁の空白
ディレクトリマップ	4	

フィールド 番 号	名 称	反復	データ内容
--------------	-----	----	-------

<識別ブロック>

001	レコード識別番号	N	レコードコントロール番号(8桁)
005	バージョン識別子	N	レコード処理の最新日時(16桁 ISO 2014 ISO 3307)

<コード化情報ブロック>

100	一般的処理データ	N	
	インディケータ1		空白
	インディケータ2		空白
\$a	一般的処理データ	N	22桁
	(1)ファイルに入れた日付		8桁(文字位置0-7)
	(2)典拠標目の状態コード		1桁(文字位置8) a:確立 b:暫定 x:該当しない(参照記入レコード)
	(3)目録用言語		3桁(文字位置9-11) jpn:日本語
	(4)翻字コード		1桁(文字位置12)
	(5)文字セット		4桁(文字位置13-16) 0190 英数文字:ISO 646(IRV) その他の文字:JISX 0208-90(漢字文字 セット)

フィールド 番 号	名 称	反復	データ内容
	(6)追加文字セット		4桁 (文字位置17-20)
	(7)目録用文字		2桁 (文字位置21-22) da:日本語 (文字は特定せず)
152	目録規則	N	
	インディケータ 1		空白
	インディケータ 2		空白
\$a	目録規則	N	N C R (UNIMARC マニュアル付録Hによる) もしくはN C R 1977
<標目ブロック>			
200	標目:個人名	R	
	インディケータ 1		空白
	インディケータ 2		人名記入の方法 0:姓名の区切りのない人名 1:姓のもとに記入される人名
\$7	文字種	N	ba:ラテン文字 dc:カナ
\$a	姓または姓名の区切り のない人名	N	(例1) 200 Δ1 \$a 夏目 \$b 漱石 200 Δ1 \$7dc\$a ナツメ \$b ソウセキ
\$b	名	N	200 Δ1 \$7ba\$a Natume \$b S^oseki
\$c	姓名以外の名前の部分 (敬称、称号、尊称等)	N	(例2) 200 Δ1 \$a 鈴木 \$b 健二 \$f 1929 生 \$g 美学 200 Δ1 \$7dc\$a スズキ \$b ケンジ
\$d	世系	N	200 Δ1 \$7ba\$a Suzuki \$b Kenzi
\$f	生没年等	N	(例3)
\$g	その他の付記事項	N	200 Δ1 \$a Salisbury \$b James Cecil \$c Earl of.
<注記ブロック>			
300	名前に関する注記	R	
	インディケータ 1		注記の種別 0:名前に関する注記
	インディケータ 2		空白
\$a	注記	N	本名、号、旧姓等の名前に関する注記を収める。 (例) 300 Δ0 \$a 号:蜀山人;四方山人

フィールド 番号	名称	反復	データ内容
301	生没年等に関する注記	N	
	インディケータ 1		空白
	インディケータ 2		空白
\$a	生没年注記	N	(例 1) 301 ΔΔ \$a 1941-1980 (例 2) 301 ΔΔ \$a-1940 (例 3) 301 ΔΔ \$a元禄時代 (例 4) 301 ΔΔ \$a 19??- (例 5) 301 ΔΔ \$a BC 76-
<「を見よ」参照ブロック>			
400	「を見よ」参照：個人名	R	
	インディケータ 1		空白
	インディケータ 2		人名記入の方法 0：姓名の区切りのない人名 1：姓のもとに記入される人名
\$0	中国・韓国朝鮮人名の 読み	N	c：中国人名母国語読み j：中国・韓国朝鮮人名日本語読み k：韓国朝鮮人名母国語読み
\$5	トレーシング・コントロール (1)関係コード	N	1桁(文字位置 0) a：旧名 b：新名 d：頭字語 e：筆名 f：本名 z：その他
\$6	フィールド間リンクデータ (1)リンク説明コード (2)リンク番号	N	1桁(文字位置 0) a：他の文字種 2桁(文字位置 1-2) 任意の数
\$7	文字種	N	ba：ラテン文字 dc：カナ
\$a	姓または姓名の区切り のない人名	N	(例) 200 Δ1 \$a 大田 \$b 南畝 200 Δ1 \$7dc\$a オオタ \$b ナンポ
\$b	名	N	200 Δ1 \$7ba\$a ^Ota \$b Nanpo
\$c	姓名以外の名前の部分 (敬称、称号、尊称等)	N	400 Δ0 \$6a03\$a 蜀山人 400 Δ0 \$6a03\$7 dc\$a ショクサンジン 400 Δ0 \$6a03\$7 ba\$a Syokusanzin 400 Δ1 \$6a42\$a 改年堂 \$b 御慶

フィールド 番 号	名 称	反復	データ内容
\$d		N	400 Δ1 \$6a42\$7dc\$a カイネンドウ \$bギョケイ 400 Δ1 \$6a42\$7ba\$a Kainend^o \$bGyokei
\$f		N	
\$g		N	
<「をも見よ」参照ブロック>			
500	「をも見よ」参照： 個人名 インディケータ 1 インディケータ 2	R	空白 人名記入の方法 0：姓名の区切りのない人名 1：姓のもとに記入される人名
\$0	中国・韓国朝鮮人名の読み	N	c：中国人名母国語読み j：中国・韓国朝鮮人名母国語読み k：韓国朝鮮人名母国語読み
\$3	典拠記入レコード番号	N	参照先の典拠記入レコード番号
\$5	トレーシング・コントロール (1)関係コード	N	1桁（文字位置0） a：旧名 b：新名 d：頭字語 e：筆名 f：本名 z：その他
\$6	フィールド間リンクデータ (1)リンク説明コード (2)リンク番号	N	1桁（文字位置0） a：他の文字種 2桁（文字位置1-2）任意の数
\$7	文字種	N	ba：ラテン文字 dc：カナ
\$a	姓または姓名の区切りの ない人名	N	（例） 200 Δ1 \$a 中島 \$b 梓 200 Δ1 \$7dc\$a ナカジマ \$b アズサ
\$b	名	N	200 Δ1 \$7ba\$a Nakazima \$a Azusa 500 Δ1 \$300023232\$6a03\$a 栗本 \$b 薫
\$c	姓名以外の名前の部分 （敬称、称号、尊称等）	N	500 Δ1 \$6a03\$7dc\$a クリモト \$b カオル 500 Δ1 \$6a03\$7ba\$a Kurimoto \$b Kaoru
\$d	世系	N	
\$f	生没年等	N	
\$g	その他の付記事項	N	
<出典情報ブロック>			
801	レコード作成機関	R	

フィールド 番号	名称	反復	データ内容
	インディケータ 1		空白
	インディケータ 2		機関の役割 0：最初の目録作成機関 1：転記機関 2：修正機関 3：頒布機関
\$a	国名	N	JISX 0304 による JP
\$b	機関名	N	N D L
\$c	最新の処理日付	N	I S O 2014 による
810	典拠	R	標目形を確定する際の対象となった当該著者の著作のタイトル等、および標目形の確定に用いた典拠（資料名等）に関する記録を収める。
	インディケータ 1		空白
	インディケータ 2		空白
\$a	典拠（タイトル等）	N	出典（タイトル等）
\$b	引用	N	標目形等について、当該資料から引用した情報を収める。
\$z	全国書誌番号	N	当該資料の全国書誌番号 (例 1) 810 Δ \$a 高周波回路の設計 \$z JP93005674 810 Δ \$a 典拠：奥付 810 Δ \$a 典拠：文化人名録 第21版
830	目録作成者一般注記	R	注記
	インディケータ 1		空白
	インディケータ 2		空白
\$a	注記	R	(例) 830 Δ \$a 狂歌師，戯作者
831	文字に関する注記	R	名前（標目形や参照形）に現れた JIS 外字に関する注記を収める。
	インディケータ 1		空白
	インディケータ 2		空白
\$a	注記	R	(例) 831 Δ \$a 名の 1 番目の文字はゲタ字 (J:3AB4, D:13222)
835	削除標目に関する注記	R	典拠レコードが削除された理由を記録する。 このフィールドは、「レコードの状態」の値が「d」 (削除レコード) のレコードにのみ出現する。

フィールド 番号	名称	反復	データ内容
	インディケータ 1		空白
	インディケータ 2		空白
\$a	注記	R	(例) 835 ΔΔ \$a 標目削除 (19950107) 00065153 と重複
\$b	代替標目	R	
<ユーザーブロック>			
906	著者名典拠録典拠番号	N	『国立国会図書館著者名典拠録 明治以降 日本人名 第2版』(1991年刊)における 典拠レコード番号を収める。
\$a	典拠番号	N	(例) 906 \$aN0071990

5 典拠記入レコード例

(例1)

レコードの状態 n
レコードの種別 x
入力レベル 0
001 00254656
005 19930128113300.0
100 ΔΔ \$a19930128a jpn0190ΔΔΔda
152 ΔΔ \$a N C R
200 Δ1 \$a 鈴木 \$b 憲次
200 Δ1 \$7dc\$a スズキ \$b ケンジ
200 Δ1 \$7ba\$a Suzuki \$b Kenzi
301 ΔΔ \$a1946-
801 Δ0 \$a JP\$b NDL \$c19930128
810 ΔΔ \$a 高周波回路の設計・製作 \$z JP93005674
810 ΔΔ \$a 典拠：奥付
830 ΔΔ \$a 愛知県工業高校教諭

(例2)

レコードの状態 n
レコードの種別 x

入力レベル 0
 001 00075508
 005 19881028000000.0
 100 ΔΔ \$a19881028ajpny0190ΔΔΔda
 152 ΔΔ \$aNCR
 200 Δ1 \$a鈴木\$b健二\$f1929生\$g美学
 200 Δ1 \$7dc\$aスズキ\$bケンジ
 200 Δ1 \$7ba\$aSuzuki\$bKenzi
 301 ΔΔ \$a1929-
 801 Δ0 \$aJP\$bNDL\$c19881028
 810 ΔΔ \$aブリュージェルの版画
 810 ΔΔ \$a典拠：大学研究者研究課題総覧
 830 ΔΔ \$a京都国立近代美術館主任研究官，九州芸術工科大・教授
 906 \$aN0081093

(例3)

レコードの状態 n
 レコードの種別 x
 入力レベル 0
 001 00263156
 005 19930514100500.0
 100 ΔΔ \$a19930514ajpny 0190ΔΔΔda
 152 ΔΔ \$aNCR
 200 Δ0 \$aAnzu
 300 0Δ \$a本名：だめぐみ
 301 ΔΔ \$a1965-
 801 Δ0 \$aJP\$bNDL\$c19930514
 810 ΔΔ \$a哀刻\$zJP93024770

(例4)

レコードの状態 n
 レコードの種別 x
 入力レベル 0
 001 00067287
 005 19910517000000.0
 100 ΔΔ \$a19910517ajpny0190ΔΔΔda
 152 ΔΔ \$aNCR
 200 Δ1 \$a佐々木\$b光\$f1921生

200 Δ1 \$7dc\$aササキ\$bヒカル
 200 Δ1 \$7ba\$a Sasaki\$bHikaru
 300 0Δ \$a 本名：前田三吉 (Maeda, Mituyosi)
 301 ΔΔ \$a1921-
 400 Δ1 \$6a01\$a 佐々木\$b 光\$f1921 生
 400 Δ1 \$6a01\$7dc\$a ササキ\$b コウ
 400 Δ1 \$6a01\$7ba\$a Sasaki\$b K^o
 801 Δ0 \$a JP\$b NDL\$c19910517
 810 ΔΔ \$a みんなで聴く音楽
 906 \$aN0072178

(例5)

レコードの状態 n
 レコードの種別 x
 入力レベル 0
 001 00192364
 005 19921208151700.0
 100 ΔΔ \$a19921208a jpn0190ΔΔΔda
 152 ΔΔ \$a NCR
 200 Δ1 \$a 張\$b 錠寿
 200 Δ1 \$7dc\$a チャン\$b ジョンス
 200 Δ1 \$7ba\$a Tyan\$b Zyonsu
 301 ΔΔ \$a1909-
 400 Δ1 \$6a01\$a 張\$b 錠寿
 400 Δ1 \$0j\$6a01\$7dc\$a チョウ\$b ジョウジュ
 400 Δ1 \$0j\$6a01\$7ba\$a Ty^o\$b Zy^ozyu
 801 Δ0 \$a JP\$b NDL\$c19910517
 810 ΔΔ \$a 在日六〇年・自立と抵抗
 810 ΔΔ \$a 典拠：標題紙及び標題紙裏
 830 ΔΔ \$a 朝鮮総連顧問
 906 \$aN0202020

『国立国会図書館蔵書目録 明治期』

刊行のお知らせ

明治期刊行図書の遡及入力が終了し、標記蔵書目録の刊行を開始します。

この目録は、昭和46～51年刊「国立国会図書館所蔵明治期刊行図書目録（書名索引共）」に、同目録刊行後に受け入れた明治期刊行図書 約3,500件を追加し、新たに著者名索引を編成して刊行するものです。

全体の構成、刊行予定時期、価格は下表のとおりです。

発売は紀伊国屋書店（分売も可）

編	編 書 名	収録件数（件）	刊 行 予 定	予価(円・消費税込)
第1編	総記・哲学・宗教	約 16,440	平成6年 9月	41,000
第2編	歴史・地理	14,669	平成6年 6月	29,000
第3編	社会科学	24,568	平成6年 7月	48,000
第4編	自然科学・工学・産業	約 22,420	平成6年 9月	44,000
第5編	芸術・言語	約 17,160	平成6年 8月	33,000
第6編	文 学	約 18,380	平成6年 8月	42,000
	書 名 索 引		平成6年10月	38,000
	著 者 名 索 引		平成6年10月	38,000
合	計	約113,000		

『UNIMARC/Authorities』 刊行のお知らせ

このたび、IFLA（国際図書館連盟）のUNIMARC典拠フォーマット運営グループが作成した『UNIMARC/Authorities』の翻訳を当館の「機械化シリーズ」として刊行しました。

このフォーマットは、目録記入の標目決定に際して重要なツールとなる典拠ファイルの国際交換を目指して開発されたものです。IFLAの国際典拠システム・ワーキンググループが1983年にIFLA委員会に提出した『典拠記入と参照記入のためのガイドライン』(Guidelines for Authority and Reference Entries)がその基礎となっています。これに基づいて、1984年に当フォーマットの第1案、1985年に第2案、1987年に第3案、1988年に第4案が提示され、各国にコメントを求め、度重なる修正を経て1991年に完成し、UBCIM（書誌調整・国際マークプログラム）事務局より刊行されました。

この典拠フォーマットはUNIMARCと構造上互換性をもつように工夫されています。それは機械可読レコード・フォーマットの三つの基本部分、

- ① レコード構造
- ② データ要素の識別のための内容識別子
- ③ データの内容

に関連しています。また対象とする範囲は、名前（個人名、家族名、団体名、会議名および地名）、統一タイトル、普通件名などで、これらの典拠レコード作成のためのガイドラインとなるものです。

今回の翻訳の刊行が、わが国における機械可読形典拠データの作成・交換のための参考になれば幸いです。今後ともお気付きの点がありましたら、是非ご意見をお寄せください。

UNIMARC/Authorities

典拠ユニバーサルフォーマット

（機械化シリーズ No.6）

編集：国立国会図書館業務機械化室

発行：国立国会図書館

発売：紀伊國屋書店

ISBN：4-87582-391-6：¥2,000

ISSN：1340-3915

（総務部業務機械化室）

問合せ先—国立国会図書館 03(3581)2331(代表)—

日本全国書誌(図書)	図書部図書整理課	(内) 3520
日本全国書誌(逐次刊行物)	収集部国内資料課	(内) 3157
ジャパン・マーク	総務部情報処理課	(内) 2401
印刷カード	図書部図書整理課全国書誌係	(内) 3517
国立国会図書館蔵書目録	図書部書誌課	(内) 3601
書誌データの内容について		
記述	収集部国内資料課	(内) 3015
標目(著者・書名)	図書部図書整理課著者書名係	(内) 3524
標目(分類・件名)	図書部図書整理課分類件名係	(内) 3526
出版社の住所の照会について		
図書館から	図書館協力部国内協力課図書館サービス係	(内) 5115
民間から	収集部収集課納本調査係	(内) 3013

全国書誌通信 (不定期刊) No. 90 1994年7月8日発行

(『印刷カード通信』の改題)

編集・発行 国立国会図書館図書部図書整理課
〒100 東京都千代田区永田町1-10-1

発売 (社)日本図書館協会 電話 03(3410)6411
定価 300円(本体291円)送料 120円